

すき くわ
動と鉄

2021年度 第三号
発行 東近江農業農村振興事務所農産普及課
発行責任者 井上 忠雄

- 農業推進係、東部普及指導第一係、同第二係
〒527-8511 東近江市八日市緑町7-23
TEL 0748(22)7727・7728 FAX 0748(22)1234
 - 西部普及指導係
〒521-1301 近江八幡市安土町大中516
TEL 0748(46)6504 FAX 0748(46)7411
 - 東近江農産普及課 Facebookページ「ふきゅーとる東近江」(<https://www.facebook.com/fecutre>)
東近江管内の農村風景や台風情報・緊急を要する情報等をタイムリーに掲載しています
- E-mail ga31@pref.shiga.lg.jp

- もくじ
- 1 ページ目：東近江青年農業者クラブ ～コロナ禍の中でも精力的に活動～
 - 2 ページ目：6次産業化による経営の多角化を支援します！
 - 3 ページ目：ユーカー栽培による農地の有効活用＆イチゴの環境制御技術実証
 - 4 ページ目：濁水流出防止＆滋賀の美味しいコレクション宣伝

東近江青年農業者クラブ ～コロナ禍の中でも精力的に活動～

東近江青年農業者クラブは、東近江地域の若手農業者、農業法人の従業員など農業に関わる若者で構成される組織です。クラブ員は現在21名で、経営部門は作物（稲・麦・大豆など）、野菜、花き、果樹、畜産など様々であり、部門を越えた交流が行われています。

今年度は、オンライン販売などの研修を企画する「①事業」、個々の経営的な課題解決に向けて活動する「②プロジェクト」、クラブ員同士の懇親会等を企画する「③交流」の3つのチームで役割分担し活動しています。新型コロナウイルス感染症が問題となっている中、ZoomやSNSを活用した活動と対面での活動を上手く組み合わせプロジェクト活動や交流も活発に行っています。地域の若手農業者と交流したい！活動してみたい！活動内容をもっと知りたい！など、興味のある若手農業関係者の皆さん、当普及指導センターまでご連絡をお待ちしております。



プロジェクト中間検討会（②プロジェクト）



懇親会（③交流）

※新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた時期に
対面で活動しています。

6次産業化による経営の多角化を支援します！

6次産業化は、農産物の加工・直売にとどまらず、農家レストランや農業体験、輸出など経営の多角化を目指し多様な取り組みが展開されています。当普及センターでは、所得向上を目指し6次産業化に意欲的な経営体に対し、6次産業化プランナーなど専門家の派遣による支援を行っています。今回はプランナー派遣を活用して経営力の向上に取り組む3事例を紹介します。

ピッツア、スイーツの販売で観光農園の魅力アップ！（東近江市 小杉豊農園）

小杉豊農園では、経営するイチゴ観光農園の集客力を高め、来園者の満足感向上を目指し本格的なナポリ風焼成窯を導入、メニュー開発から店舗デザイン、PR戦略等まで6次産業化プランナーの助言を受け、令和2年11月に農園カフェ「ricco」（イタリア語で「豊か」という意味）を開設されました。

計画した営業期間の半分で、6次産業化部門の売上は目標の約9割を達成されています。また、イチゴを使ったピッツアやパフェ、スムージー、氷イチゴ等、お客さま目線の商品開発に取り組み、更なる魅力アップに挑戦されています。



本格的な釜で焼いたピッツア

米のブランド化によりフランスへの輸出が実現（竜王町 株若井農園）

若井農園は減農薬栽培や土づくりにこだわり、食味重視の米づくりに取り組まれてきました。五つ星お米マイスター、米・食味や調理炊飯のほか、水田環境などの鑑定士資格を取得され、各種コンクールで高い評価を受けています。

これらの取組や成果を販路拡大につなげるべく、マーケティングを専門とする6次産業化プランナーの支援を受け、更なる高付加価値化を目指したブランディング、販売戦略作成に取り組まれた結果、フランスへの輸出が実現、販路拡大につながりました。



販売戦略をプランナーと検討

顧客満足度が高い観光農園を目指す（竜王町 ひさだ農園）

ひさだ農園では、「20～30歳代の女性が魅力を感じる観光イチゴ園」をコンセプトに、農園の運営方法について6次産業化プランナー支援を活用されました。

集客手法として、去年はSNS等による情報拡散効果が期待できる顔八メ看板等写真映えするエリアを整備、この冬からはコンフィチュール等のお土産スイーツの開発、農園のイチゴを使ったタルト、ロールケーキ作りなどの体験教室を開始されます。取組の効果について、顧客満足度調査を実施し、更なる経営改善に活かしていく予定です。



体験教室の開始に向けた試行実験

ユーカリ栽培で遊休農地の有効活用をめざす！！

“コアラの葉っぱ”として有名なユーカリですが、今、ブライダルやフラワーアレンジなど様々な場面で大人気の切り枝として需要が伸びています。ユーカリは永年性の品目で、一度定植すれば長期にわたって栽培できます。また、収穫適期が長く、自分のペースで収穫できます。さらに、野生鳥獣による被害を受けにくい品目です。一方で、ユーカリの生育や栽培管理には不明な点が多く、栽培技術が確立されていません。

東近江地域では、令和2年度から山裾等の水源に乏しい農地や、集落内に点在する作業性の劣る不整形な農地等の活用に向け、ユーカリ栽培の技術実証を行っています。株枯れや、強風による倒木など、技術確立には多くの課題が山積していますが、令和3年秋より収穫・出荷が始まり、遊休農地の有効活用に向け、大きな足掛かりとなりました。



遊休農地に定植されたユーカリ

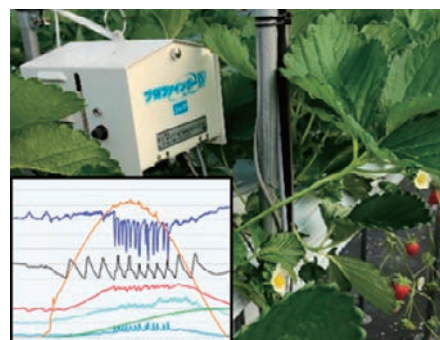


箱詰めされたユーカリの切り枝

イチゴの環境制御技術を実証しています！！

東近江地域では、59戸7.8ha（令和3年2月現在）において少量土壌培地耕（高設栽培）によるイチゴが栽培されており、新規就農者の参入や規模拡大する生産者により栽培面積が年々拡大しています。現在は、暖房を行わないなど低コストな栽培により収益性を高めています。生育や収量は冬期の天候の影響を受けやすく、不安定になっている面もあります。そこで今年度、国のスマート農業事業を活用し、収量向上を目的として、今注目されている環境制御技術の実証ほの設置や、専門家の講師による研修会を開催しています。

実証ほでは、ハウス内環境を測定機器で「見える化」したデータを基に加温や炭酸ガス施用、日射量に応じた灌水などにより、光合成に適した環境にコントロールしたハウスでの栽培を実施しています。また、費用対効果や果実品質への影響も評価することで、技術導入の効果を総合的に検討しています。



ハウス内環境の「見える化」

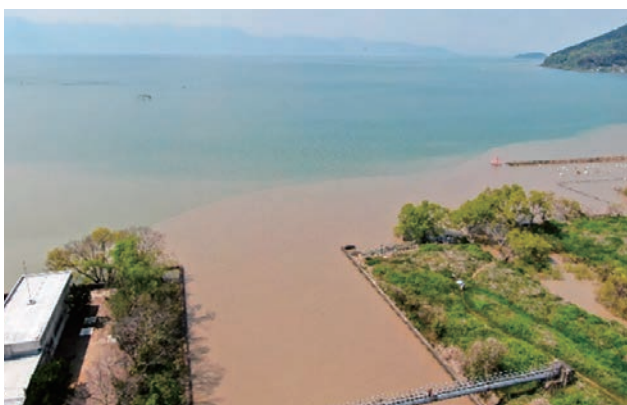


環境制御機器と冬期のイチゴ

自動直進田植え機で濁水流出防止！

代かきや田植え作業が集中する4,5月は、水田から流出した濁水による琵琶湖への負荷が大きな課題となっています。環境と調和した持続的な農業のためには、**ほ場の均平化**、**適切な水管理**や**浅水代かきの実践**など、農業者の皆様の継続した取組が必要不可欠です。

当課では今年度、農業濁水対策のひとつとして自動直進田植機の実証を行ったところ、濁水流出防止効果があることに加え、移植精度と水稻生育に影響は無いことが確認できました。自動直進田植機はGPSにより自動で直進するため、回転マーカのラインが見えなくても田植え作業が可能となります。田植え当日に思っていたほど減水していない場合や、降雨により深水となっても強制落水する必要がありません。



琵琶湖へ流出する濁水



自動直進田植機での田植え作業

滋賀の「おいしい」が丸わかり!!

「食」の情報発信サイト 滋賀のおいしいコレクション



「食」の情報発信サイト「滋賀のおいしいコレクション」では近江米や近江牛、旬の農産物など様々な「滋賀のおいしい」を発信中!!

生産者や産地の紹介、滋賀の食材を買える・楽しめるお店などの検索機能も充実しています。

「滋賀のおいしいコレクション」
ぜひ一度ご覧ください!

<https://shigaquo.jp/>

滋賀のおいしいコレクション

検索



SNSでは、旬の食材や県産食材を使ったお店の最新情報を発信中!ぜひチェックしてください。

Instagram



Facebook

